


大学入試、どう変わるか

—新学習指導要領×大学入学者選抜—

日 程

日時	2022年 7月16日 (土) 14:30~17:30	
方式	ハイフレックス(対面・Zoomウェビナー併用)	
参加方法	<p>会場：早稲田大学 早稲田キャンパス 3号館 305号室 対面参加：会場に直接おこしてください(事前登録不要)。 オンライン参加：QRコードからフォームを開き参加登録を行ってください。研究所HP(https://www.waseda.jp/fedu/iase/)からもアクセス可能です。 ※オンライン参加登録は6/20以降可能となります。</p>	 <p>オンライン参加 登録フォーム</p>

プログラム・登壇者

講演①	大学入試改革を問い直す—その現代的特徴をどうみればよいか	
講演者	濱中 淳子氏 (早稲田大学教育・総合科学学術院 教授)	
講演②	国語：新指導要領の「失敗」と論文トレーニングの「未来」	
講演者	紅野 謙介氏 (日本大学文理学部 特任教授)	
講演③	新科目「歴史総合」「日本史探究」「世界史探究」の教育・入試現場への影響	
講演者	小森 宏美氏 (早稲田大学教育・総合科学学術院 教授) 渡邊 泰斗氏 (早稲田大学教育学研究科修士課程/神奈川県立光陵高等学校 教諭)	
講演④	入試・教科書・指導要領の三すくみから脱出を目指して—理科・生物の観点から—	
講演者	園池 公毅氏 (早稲田大学教育・総合科学学術院 教授)	

大学入試、どう変わるか

—新学習指導要領×大学入学者選抜—

講演概要

本講演会は、学習指導要領の改訂と大学入学者の選抜方式の変更という二つの大きな改革が重なるなか、大学入試が抱える課題を明らかにし、これからの入試の形を具体的な教科、専門領域との関わりから検討していくことを目的とする。

2021（令和3）年度から大学入学共通テストが新たに導入された。2022（令和4）年度からは高等学校において、平成30年3月に告示された新学習指導要領が年次進行で実施となり、大学入学共通テストは2025（令和7）年度以降、新学習指導要領に対応したテストとなる。この変更は、高等学校はもちろん、その前の初等・中等段階にも少なからず影響を及ぼすことだろう。新学習指導要領は「アクティブ・ラーニング」、「主体的・対話的で深い学び」、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実などをめざしているが、それらと大学入試との整合性という第三の視点も重要になるだろう。これらをふまえながら、今後の高等教育と入試のあり方を、改革の背景も視野に入れて考えていきたい。

《プログラム》

日時：2022年7月16日（土） 14：30～17：30（予定）

開催方法：ハイフレックス(対面・Zoomウェビナー併用)

講演：

1. 濱中 淳子氏 早稲田大学教育・総合科学学術院 教授
2. 紅野 謙介氏 日本大学文理学部 特任教授
3. 小森 宏美氏 早稲田大学教育・総合科学学術院 教授
渡邊 泰斗氏 早稲田大学教育学研究科修士課程/神奈川県立光陵高等学校 教諭
4. 園池 公毅氏 早稲田大学教育・総合科学学術院 教授

—休憩—

質疑応答・討論

総括

開会挨拶 和田 敦彦氏（早稲田大学教育総合研究所 所長/教育・総合科学学術院 教授）

司会 佐藤 隆之氏（早稲田大学教育総合研究所 副所長/教育・総合科学学術院 教授）

1. 大学入試改革を問い直す—その現代的特徴をどうみればよいか

濱中 淳子氏 (早稲田大学教育・総合科学学術院 教授)

2010年代半ばから動き出した今般の大学入試改革は、新体制に切り替わる直前に「英語民間試験導入」や「国語・数学の記述式問題導入」が見送られるなど、大きな混乱のなかにある。なぜ、このような事態に陥ったのか。改革がまだ続くことを鑑みても、その背景を理解しておくことは大事な作業になる。本報告では、過去の大学入試改革との対比のなかで今般の改革の特徴について解説したうえで、迷走の原因をどうみればよいか、今後の改革にどう臨むべきかについて若干の考察を加えることにしたい。

2. 国語：新指導要領の「失敗」と論文トレーニングの「未来」

紅野 謙介氏 (日本大学文理学部 特任教授)

残念ながら高校の新学習指導要領によって方向付けられた「国語」教育の方針はほぼ失敗が予測される（第一学習社「現代の国語」や数研出版「論理国語」の逸脱と検定合格、それに対する文科省の処理のしかたから明らかである）。「論理的思考力」や「主体的・対話的で深い学び」といった謳い文句から遠く、タマエとホンネを使い分け、形式的整合性ばかりを合わせる能力を身につけさせることになるだろう。仮面のかぶり方を学び、次第に仮面と素面の区別すら消えていくかもしれない高校生に対して、どのような選抜制度を開くべきか。来るべき困難に対する個別最適な選択肢を探ってみたい。

3. 新科目「歴史総合」「日本史探究」「世界史探究」の教育・入試現場への影響

小森 宏美氏 (早稲田大学教育・総合科学学術院 教授)

渡邊 泰斗氏 (早稲田大学教育学研究科修士課程/神奈川県立光陵高等学校 教諭)

共通テストへの移行や入試科目の変更、歴史総合の新設は、教育現場にどのような可能性を開き、またいかなる限界や問題があると認識されているのでしょうか。他方で、共通テストのみならず、各大学の個別入試にも改革が要請される中で、受験生の能力を従来の入試ではいかに測定しようとしてきたのか、測定しきれなかったのかという点については必ずしも検証が十分ではありません。こうした諸点を踏まえ、高校と大学の両方の現場の視点から今般の変革について検討してみたいと思います。

4. 入試・教科書・指導要領の三すくみから脱出を目指して

—理科・生物の観点から—

園池 公毅氏 (早稲田大学教育・総合科学学術院 教授)

大学入試センター試験が2020年度入試から思考力をより重視した新しい大学入学共通テストへ移行した。また、高等学校の学習指導要領が2018年3月に改訂され、その解説に見られる「関連付けて理解する」「見いだして表現する」といった言い回しに象徴されるように、知識そのものではなく、知識を学ぶプロセスが重視されるようになった。どちらの場合も「知識から考える力へ」という趣旨自体は明確ではあるものの、その趣旨を現実の入試問題あるいは教科書・教授方法へ反映させようとした場合、さまざまな現実的問題が立ちはだかる。本講演では、理科、特に生物の分野を取りあげて、そのような問題とその解決の方向性を議論したい。